

平成30年度 公益財団法人山梨県青少年協会事業計画書

事業計画

基本方針

山梨県から、「県立青少年センター」、「県立愛宕山こどもの国」、「県立愛宕山少年自然の家」、「県立八ヶ岳少年自然の家」、「県立科学館」の5施設を指定管理者として管理運営している。現在までの45年を超える施設運営の経験を活かして、県民サービスの一層の充実を図り、利用者の皆様に満足していただける施設運営に努める。

行政をはじめ、家庭、学校、地域社会、企業等との連携を密にしながら、積極的な取り組みを推進し、年々厳しさを増す社会経済状況の下で、従来にも増して協会設立の意義と役割を自覚し、事業を適性かつ継続的に行えるよう、健全な運営に努め、青少年の健全育成を図る。また、平成31年度からの中期的な経営計画の策定を行う。

事業実施計画

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会、等の諸会議を開催し事業を推進する。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努める。

II 公益目的事業会計 施設管理運営

1 県立青少年センター運営事業

青少年が安心してのびのびと活動できる拠点として、また、個人・各種サークルや団体等の県民の活動や交流の場として、安全で快適にご利用いただけるよう、適切な施設管理を行うとともに、生涯教育の一環として、幅広い世代に対応した主催事業・自主事業を30事業実施する。

平成30年度は、引き続き、地域の小学生が放課後を安全に過ごす居場所としての「放課後子供教室」や、悩みを抱える青少年等に向けての相談支援事業のほか、様々な青少年問題に対応する「青少年育成山梨県民会議事業」の実施に加え、地域住民との交流を深める事業をし、さらに地域に根差した施設運営を進めるとともに、青少年の健全育成を推進する。

2 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家運営事業

愛宕山こどもの国は甲府盆地を一望することができる標高428mの広大な愛宕山一帯に広がる自然公園である。その斜面地を活かした大型遊具やアスレチック、変形自転車広場、ライオンの池、遊歩道などの複合施設を有することから、未然の事故防止のため広範囲にわたる巡視、点検整備作業を常日頃効率的かつ効果的に行い、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めている。訪れる皆様が四季折々の美しい景観や緑豊かな里山の自然の良さを感じながらリフレッシュでき、健康寿命の延伸に寄与する快適な環境を提供する。また、園内に一体となる愛宕山少年自然の家では、家庭や学校などの日常生活を離れ、集団宿泊体験学習を中心に、豊かな人間性を身につけさせる自然体験活動の支援とそのプログラム開発を行い、併せて自然体験活動の普及を推進する。

年間26実施する主催・自主事業では、豊かな自然環境を生かし、子育てに不安や悩みを抱える保護者が交流、相談することができる機会や子どもと他の世代との交流など、成長に応じた切れ目ない支援を行なうことに重点を置き、子どもたちが自らを大切に思う気持ちと他者を思いやる心をはぐくみ、健やかに成長できる多様な自然体験活動を行なうと共に、常に安全安心な育ちの場となる施設運営を目指し満足度と利用率の向上に努める。

3 県立八ヶ岳少年自然の家運営事業

子どもたちが家庭や学校などの日常生活から離れ、集団宿泊体験により自らを律する精神を学び、自然を身体で確かめる自然体験活動により自主性や社会的態度を身に付け、経験とすることで学校生活等の充実に寄与でき、子どもたちと指導者双方に意義ある理想的な学習環境づくりと活動支援を行う。

さらに家庭・家族、環境等の現代的課題に対応した支援事業として、子どもたちや家族が元気になり、季節を肌で感じ取れる多様な主催・自主事業を年間通して26事業を実施し、併せて自然体験活動の普及を推進する。

急速に進む少子化の中、定期利用と更なる利用の増加を図るため広報活動についても、従来と同様に「SNS」等の各種メディアを積極的に活用し、多面的で広範囲な情報提供を継続的に行い、公平性を保ちながら利用の促進・拡大に努める。また、常に安全管理には万全を期すと伴に、コスト意識を持ち、安定的かつ経済的に自立した施設づくりに努め、安心と信頼を兼ね備えた快適な環境を提供する。

4 県立科学館運営事業

県立科学館の設置目的である、青少年をはじめとする県民の科学への関心と理解を深め、豊かな感性と創造性を育む施設としての役割を果たす。

平成30年度の運営管理にあたっては、これまでの良い点は維持しつつ、山梨県内の大学・企業との連携を一層強化し、平成28年度に実施した「科学館利用者調査」の結果も踏まえた主催事業の充実や最先端科学技術の紹介等、質を重視した教育的機能の強化を図る。また、CST や職場体験の実施を通じて理系人材の育成に力を入れるとともに、生涯学習拠点として、科学技術の理解が深まるよう県民向けの科学情報の提供を進めていく。

学習利用については、学校からの意見・要望等を取り入れた学習効果が高いプログラムを導入する事により、小中学校及び高等学校の利用拡大に努め、広報活動についても、従来の広報活動に加え、時代に合った効果的な手法を研究し、県内外への積極的な広報を行う。

さらに、県内各所における出前サイエンス教室や出張観望会の開催により、普段科学館に足を運びにくい遠隔地の子ども達にも、科学の面白さ・不思議さを体験する機会を設け、併せて新規利用の獲得を図っていく。

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、自動販売機による飲料水の販売等や自然科学、宇宙天文に関するオリジナル製品の販売により利用者を支援する。

安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図る。

作成したプラネタリウム番組を他の科学館等に PR を兼ねて安価で配給する。